

令和4年度 都城市立丸野小学校 学校評価報告書

学校経営ビジョン	丸野愛を、知・徳・体・ふるさと教育の四つの分野から育てていく。							
学校の教育目標	丸野愛「愛」を育てる学校を目指す。愛=丸野小の子どもたち・教師が、一人ひとりを大切に思い、行動する力							
めざす児童像	一人ひとりを大切に思い行動する子							
重点目標 (経営ビジョン)	1 分かる・できるの実現と基礎学力の向上を図る。 2 生徒指導の徹底を通して豊かな人間性の育成を図る。 3 健康安全教育の徹底を通して体力の向上を図る。 4 丸野に学び、丸野を愛し、ふるさとに貢献できる人材育成を図る。					※ 評価の基準 4 …期待以上 3 …ほぼ期待通り 2 …やや期待を下回る 1 …改善を要する		
評価項目 (重点目標)	手段・ゴールイメージ	自己評価の結果 (4段階)			学校の自己評価 (成果と課題)	学校運営協議会委員の評価		改善策
		職員	保護者	児童		評価	意見等	
わかる・できるの実現と基礎学力の向上を図る。	1 「わかる・できるを実感できる授業」を目指す。CRT テストの平均得点率全国以上を目指す。	3.1 -0.3	3.4 -0.2	3.5 -0.1	○3者全て昨年度に比べ若干のマイナス。ICTを取り入れた授業の在り方については研究途上にある。CRTテストは全国平均をわずかに下回っており、教科指導の基本と教育活動全体を通しての読解力育成が急務。	3.7 +0.3	○ICTを使った授業により、自分で調べるなど興味をもつことが増えたのではないでしょう。○全学年、活気があり、のびのびしている。○家庭学習については、月1か学期はじめなど定期的に家庭学習の様子などのアンケートなりとしてみたら、保護者の関心も高まるのではないのでしょうか。	○この2年間で推進してきたICT機器活用の成果と課題を踏まえ、教科指導に主軸を置いて、主題研究を中心に授業改善と読解力向上に取り組んでいく。○家庭学習への取組推進を図るため、家庭への啓発等を含め、定期的な振り返りをsigfyやGoogleフォームを活用して行う。
	2 主題研究で「ICTを活用した授業づくり」を推進し、授業改善のための研修を深め、教師の授業力向上を目指す。	3.8 +0.4	3.3 -0.2	3.8 -0.1	○職員はICTの授業や家庭学習への活用について習熟してきている。一方でコロナ渦にあって参観日など授業公開の機会が少なく保護者には伝わっていない。デジタルとアナログの調和を意識していく必要がある。	3.6 -0.2		
	3 家庭学習のさらなる充実と工夫、習慣化を図る。	2.9 -0.2	3.1 -0.1	3.7 +0.1	○家庭学習にAIドリルQubenaを取り入れたことで児童の評価が上がったと思われる。一部ではあるが家庭学習の習慣化が不十分な児童が見られ、職員の評価が低くなったと思われる。家庭の協力が不可欠である。	3.1 -0.2		
	4 読む力向上のため、読書活動の推進に努め、各学年の平均貸し出し数低学年9冊、中学年7冊、高学年5冊以上を目指す。	3.3 +0.6	2.7 ±0	3.3 +0.2	○移動図書館くれん号や図書館サポーターの協力もあり、読書量は多くなった。一方で、必ずしも学力向上には結びついておらず、娯楽としての読書だけでなく知育としての読書の推進が今後の課題である。	3.7 +0.1		
生徒指導の徹底を通して豊かな人間性	1 基本的な生活習慣のため、あいさつ運動やきまり・約束を守る態度の育成を図る。	3.4 +0.2	3.3 ±0	3.7 ±0	○ほぼ昨年度と同じ評価である。教師の率先垂範により学校内での挨拶は大変よい。地域でのあいさつについては学校内ほどの元気はないようで今後の課題のひとつである。	3.6 -0.2	○あいさつについては、昨年度も同じ課題があがっていた。個人差があるが児童は意欲的に取り組んでいるので今後も励ましながら継続指導する。○児童が主体性を発揮する場を積極的に取り入れることで、児童の自信や安心感を高めていく。	
	2 各種体験活動を通して、自主性や自立、協調性の醸成を図る。	3.2 +0.2	3.1 +0.1	3.8 +0.3	○3者全て昨年度に比べプラス評価。数値を見ると保護者の数値が低めである。家庭教育の範疇であるが、学校から啓発するなどの手立てを講じることも今後検討していきたい。	3.6 +0.4		
	3 認め、褒め、支え、鍛える学級経営を行い、自己肯定感、自己有用感の向上と自主的行動の育成を図る。	3.7 +0.3	3.4 -0.1	3.7 +0.1	○全体に高い数値であり、学校においては自信をもち安心して過ごしている児童が多いように思われる。保護者の評価がやや低い結果であり、学校と家庭の乖離が見られ、何らかの手立てが必要と思われる。	3.6 +0.4		
	4 様々な体験活動を通して、豊かな感性をもち、他者を思いやり一人ひとりを大切にしようとする児童の育成を目指す。	3.0 ±0	3.4 ±0	3.6 ±0	○思いやりある言動ができる児童が多く、大きなトラブルはない。職員の評価が低めであるが、課題をもつ児童への指導や支援について問題意識の高さの表れと見られる。	3.7 -0.3		
健康安全教育の徹底を通して体力の向上を図る。	1 「自分の命は自分で守る」ことを徹底し、交通安全の意識と危険を予測できる力を高め、規則を守って行動する態度を育成する。	3.4 +0.1	3.5 ±0	3.9 +0.05	○危険な行動はほとんど見られず、きまりを守って行動できる児童がほとんどである。今後も維持できるよう安全教育を継続していくとともに規範意識を高める指導に努める。	3.6 -0.2	○年間数件のきまり違反はあったが、全体に落ち着いた生活ができています。○家庭での様子は分かりませんが、先生方が保護者と連携されて取り組まれていることが素晴らしいと思います。○メディアコントロールは、喫緊の課題と捉え、ICT機器活用の指導とあわせて、健康面とモラル面から指導をしていく。○定期的な自己評価等をsigfyやGoogleフォームを活用して行う。	
	2 志和池地区の体力の向上の課題である柔軟性の向上と基礎体力の育成を図るため、教科体育の充実を図る。	3.2 +0.2	3.2 +0.1	3.5 ±0	○昨年度に比べ若干のプラス評価となった。朝のグーパー運動など日常的な取組を今後も継続し、体力向上を図っていく。	3.4 ±0		
	3 家庭と連携しながら、基本的健康習慣の定着を図る。(早寝・早起き・朝ご飯・朝ウンチの習慣の定着、ノーメディアデーの取組)	2.9 -0.2	3.1 -0.1	3.5 ±0	○職員、保護者の評価が低い。保護者からは、睡眠についての相談が目立つ。スマホやゲームなど、ICT機器と生活習慣のバランスについては学校、家庭共通の課題である。	3.1 -0.3		
	4 食育の推進を図り、弁当の日の実践を進めるとともに、歯の健康への関心を高め、う歯治療率のさらなる向上を図る。	3.1 -0.3	2.9 -0.1	3.7 ±0	○食に関しては、給食の残菜は少なく学校ではよく取り組んでいる。保護者の評価が低い。食に関する意見は保護者からはなく、家庭での食育状況については不明である。	3.6 -0.2		
4 丸野に学び、丸野を愛し、ふるさとに貢献できる人材育成を図る。	1 学校運営協議会との連携を通して、ふるさと教育の充実と活動の工夫と体験活動の推進を図る。	3.3 +0.8	3.3	—	○地域人材の学校への協力が大変ありがたかった。教育活動から環境整備まで多大な協力をいただいている。今後は、地域の学習素材の活用にも力を入れていきたい。	3.6 -0.2	○発表を見て、ふるさとへの関心は大人より子どもの方が素直に感じていると感じました。○ホームページで学校の様子は分かりやすいです。地域の方との行事については、高齢化もあるので検討しながら内容等を考えなければならぬのかなと思います。○学習指導では、各クラスともに一人ひとりに行き届く指導をされ、分からない児童にはちゃんと手を差し伸べて指導されている姿が見受けられました。	
	2 児童のふるさとへの関心を高め、ふるさとを誇りに思い、自分を生かそうとする児童の育成を目指す。	2.8 -0.2	2.6 -0.1	3.7 ±0	○児童の評価が高い反面、職員と保護者の評価は低い。ふるさと丸野を意識した学習や行事を今後も工夫していく必要がある。	3.4 +0.2		
	3 学校便りの発行及びHPの更新で、学校・児童のよさや活躍を定期的に家庭・地域に発信していく。	3.5 +0.1	3.6 +0.2	3.3 -0.1	○校長による学校だより発行、ホームページ更新により職員・保護者ともに高い評価となっている。本年度よりメール配信システムsigfyとの連携にも取り組んできた。今後さらに充実を図っていく。	3.7 -0.1		
	4 ふるさと教育の充実のため、地域の素材・人材・施設との連携や活用を図り、様々な教科での活用を推進する。	3.4 +0.5	3.6 +0.3	—	○コロナ渦であったが、恒例の行事については地域の方々の協力により実施することができた。特に体験活動は予定していた行事を全て行うことができた。今後も継続して行っていきたい。	3.6 -0.2		

※自己評価の結果の数値は、上段は4段階評価の平均値、下段は昨年度の平均値との比較、—表記は対象者による評価が困難なため質問をしていないもの。